

# 『遊佐町の考古学Ⅰ』

## 第1回 遊佐町の旧石器時代から縄文時代前期

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館  
館長 渋谷 孝雄

### はじめに

遊佐町は県内で最初に科学的な発掘調査が行われた町で山形県の考古学の原点でもある。昭和26年8月致道博物館による吹浦遺跡の第1次調査から72年が経過した。以来、昭和29年には特色のある出土状態で発見された「杉沢の土偶」について江坂輝弥・酒井忠純氏の論文が発表され、昭和36年には本邦にもたらされた最初の金属器である「三崎山の青銅刀」の評価が柏倉亮吉氏によって行われた。昭和41年には早期の金俣B遺跡の調査が行われ、昭和45・46年の町教委が主体となった神矢田遺跡の発掘調査では、後・晩期を中心に中期末から弥生時代の土器が多数出土した。

さらに、昭和58年から61年まで吹浦バイパス建設工事に伴い吹浦遺跡の緊急発掘調査が行われ多数の竪穴住居跡と大規模な貯蔵穴群が発見された。平成4年には鳥海南麓農地開発事業に伴い金俣I、K遺跡の発掘調査が行われ、山間部の特殊な遺跡であることが明らかとなった。平成7年には県営ほ場整備事業に伴い小山崎遺跡の調査が行われ、全国的にも有数な低湿地遺跡であることが明らかとなり、平成10年度から23年度まで継続して発掘調査が行われ、平成27年度には総括報告書、令和元年度には総括報告書(2)が刊行され、令和2年3月10日に国の史跡に指定された。

また、平成10年には農道整備事業に伴う竜沢山遺跡の発掘調査で中期中葉の竪穴住居跡が検出され、小山崎遺跡の関連調査の中で柴燈林遺跡の小規模な発掘調査も行われ、縄文時代中期中葉の大規模な遺跡であることが判明した。

### 1 遊佐町の旧石器時代

縄文時代以前の旧石器時代の遺跡の探求は佐藤禎宏氏によって精力的に行われ、村上孝之助氏が臂曲や金俣から採集した資料や、月の原などで採集されていた旧石器について報告された(佐藤1966a・b、佐藤1967a・b、柏倉他1972)が、発掘調査は行われていなかった。

図2の上段がこれらの資料の実測図である。臂曲遺跡で採集された石器にはナイフ形石器3点と彫刻刀形石器1点があるが、ナイフ形石器には杉久保型ナイフ形石器があり、彫刻刀形石器は神山型彫刻刀形石器であることから杉久保石器群であると言える。金俣A遺跡には基部加工で先端も幅広のナイフ形石器と周辺加工の尖頭器、石刃がある。臂曲遺跡と金俣A遺跡の資料は村上孝之助氏のコレクションに含まれており、昭和49年10月1日に町の文化財に指定された。

月の原B遺跡には基部と先端左側に加工が施されたナイフ形石器と基部側に刃部を作出した縦型搔器がある。また、今回展示している金俣F遺跡のナイフ形石器は佐藤禎宏氏の採集資料で基部両側と左側縁全体に刃潰し加工が施されている。

展示資料の吹浦遺跡の台形石器は4次調査で1219号土坑の堆積土から出土したもので、現位置を失って単独で出土した。玉髄質の縦長剥片を截断し、切断面に急角度の刃潰し加工を施した撥形の台形石器で、これに類似する石器は秋田県縄手下遺跡で出土している(吉川2006)。

また、1976年には宮山坂F遺跡で細石刃や湧別技法による細石刃核が出土していることが判明した(佐藤・中山1976、佐藤1982)。佐藤氏によれば採集された石器は14点で湧別技法による細石刃核

が1点、細石刃が8点、荒屋形彫刻刀を含む彫刻刀形石器とその未成品が4点、石刃が1点である。この他、大川貴弘と山形県教委が採取した細石刃が2点ある。平成14年12月に農道整備に関連してその敷地内を、山形県教育委員会が26ヶ所の試掘調査を行ったが石器は出土しなかった。この調査時に1点の細石刃を採取している。

平成12年に懐ノ内F遺跡の発掘調査が渋谷孝雄と発見者の大川貴弘氏とによって行われた(渋谷・大川2000、大川2001)。後期旧石器時代前半期の米ヶ森型台形石器と石核未調整の石刃石器群から成る石器群であった。図3の下段に石器の分布図を、図4から図8に出土した石器の実測図を掲載した。図4の3013と2064は米ヶ森型台形石器である。また、2005は剥離面が小さいが台形剥片の石核である。この他採集品の石核2点を展示している。図4下段は大形の剥片の腹面から横走して、連続的に剥離された台形剥片である。図5には2点接合する台形剥片の接合資料を3点示した。図6、7には寸詰まりの石刃を図示した。2019は細石刃の可能性がある。展示品にあるように遺跡からは細石刃が採集されている。図7の下段、図8には石刃の接合資料を図示した。

2020年には日本海東北自動車道関連で発掘調査が行われていた水林下遺跡で台形様石器を伴う石器群が発掘された((公財)山形県埋蔵文化財センター2021)。2022年と継続して発掘調査が行われている(109、114、119)。後期旧石器前半期では県内でもっとも古い時代の石器群が出土した。現在報告書作成中で、今回、期間を限定して展示することとなった。図3の1、2は台形様石器、3は錐、4は楔形石器、5はスクレイパーである。なお、石刃やナイフ形石器はないが、透閃石岩製の磨製石斧の断片資料が出土している。

## 2 発掘調査が行われた縄文時代の遺跡

### (1) 小山崎遺跡

#### 調査の経過と概要

小山崎遺跡の発掘調査は、平成7年度の県営ほ場整備事業を契機となった。山形県教育委員会によって遺跡の一部で緊急調査が実施された。その結果、地層の堆積順序から縄文時代早期から晩期までの長期間にわたる文化の移り変わりを明確に捉えることができ、また、泥炭層のため建築部材や木製品・骨・木の実などの腐りやすい有機物が良好に保存されている貴重な遺跡であることも明らかとなった。関係諸機関や地権者の方々との調査結果を基にした協議で、遺跡の主要部分が遊佐町土地開発公社によって買収され、現状のまま保存されることになった。

平成7年度の成果を踏まえ、山形県教育委員会が平成10年度から国庫補助を受け4ヶ年継続の学術調査を行うことになった。遺跡の範囲・内容を把握したうえで国の史跡指定を受け、整備活用を図ることがその目的となった。この調査は山形県立博物館が担当した。

しかし平成10・11年度の第2次・3次調査の結果、低湿地に隣接する舌状台地上は広範囲に土取りが行われていることが判明し、予想されていた住居跡は発見できず、再び、低地部の調査の必要性が生じた(阿部1999、2000)。この調査は第4次調査として平成12年度に緊急雇用対策事業で(財)山形県埋蔵文化財センターが担当して、低地部の3ヶ所の調査を行ったが、低地には縄文時代後期の集落はないとの予想がつけられた(渋谷・竹田2001)。

県立博物館の調査は5ヶ年計画に変更となり、平成12年度(5次)と13年度(6次)に低地を対象に実施され、14年度にはボーリング調査が実施したが、低湿地の遺跡を残した縄文人の集落は発見できなかった(安部2001、2002、2003)。

これらの結果を踏まえ、集落探索の調査は調査体制が整った遊佐町教育委員会にバトンタッチされた。

平成15年には遊佐町教育委員会が緊急雇用対策事業で小山崎遺跡発掘調査団に委託し7月に小山崎遺跡背後の山間部の試掘調査に着手した。第8次調査となる。同年10月から1月には9次調査として背後台地の試掘調査が継続され、柴燈林遺跡にメスが入れられるとともに新たに柴燈林2、柴燈林3、牛渡1、牛渡2、七曲道上が発見登録された。しかし、低湿地の遺跡を残した縄文人の集落と同時期の遺跡ではなかった。平成16年にも遊佐町緊急雇用対策事業で小山崎遺跡発掘調査団に委託した第10次発掘調査は6月から8月にかけて行われ、低地部東部と舌状台地東側低地が対象とされたが、この調査でも、集落は発見できなかった。10月の11次調査はでは西方の山麓部の試掘調査で柴燈林4、柴燈林5遺跡が発見登録されたが、水辺の遺構を残した縄文人の集落は発見できなかった。2年、4次にわたる調査結果は平成17年に報告書が刊行された(佐藤2005)。

平成17年からは国庫補助事業による遊佐町教育委員会の直営の調査となり、集落探索の調査は継続された。平成17年の12次調査では低地1ヶ所、舌状台地から低地までの斜面部に2ヶ所の調査区が行われた(大川2006)。平成18年の13次調査は高倉林道の南の舌状台地と北の斜面部の調査が行われ、試掘溝を入れ、高倉林道北の斜面部に後期の集落の存在があるのではないかと注目された(佐藤・大川2007)。平成19年の14次調査で高倉林道北の急斜面に入れられた調査区から中期末葉の竪穴住居跡が検出され、後期のまとまった遺物も確認され、さらに過去の土取り範囲も明確になった(佐藤・大川2008)。平成20年の15次調査では急斜面に中期末葉の集落があることが確定し(佐藤・大川2009)、よく21年の16次調査でこの集落は中期末葉から後期後葉の竪穴住居跡が4棟、その可能性が高い土色変化が5ヶ所で確認され、水辺の遺構や低湿地の多彩な遺物を残した縄文人の集落であることが確定した(佐藤・大川2010)。

その後、遊佐町教育委員会では総括報告書作成のための指導委員会を組織し平成22年にはボーリング調査(17次)を実施したが、水辺の遺構の再調査が必要との結論に達し、平成23年に水辺の遺構周辺の再発掘を18次調査として実施し、自然科学的なデータも収集した。この調査の結果や一部しか報告のなかった県立博物館調査資料も検討し、平成17年に総括報告書が刊行された(大川編2015)。その後、文化庁から成果をコンパクトにまとめるよう指示があり、令和元年度に総括編2が刊行され(渋谷他2019)、翌令和2年3月10日に国の史跡に指定された。

その後、遊佐町教育委員会では令和4年に保存活用計画書、6年には整備基本計画書を刊行して現在に至っている。

### 縄文時代早期・前期の調査成果

小山崎遺跡は縄文時代早期中葉の田戸上層式併行期(第1群土器)から晩期中葉の大洞C1式(第25群土器)まで、早期中葉から後葉と前期後葉の大木4式、中期前葉の大木7b式期を欠いてはいるが、ほぼ全期間にわたって生活痕跡がある希有な遺跡である。1回目の講座では小山崎遺跡の早期と前期について調査成果を概観する。

縄文時代早期の遺構の検出はなく、土器は低地東部と高倉林道北の斜面部、高倉林道南の舌状台地の付け根から出土している。図11の田戸上層式の土器は2次調査のA区のXⅢ層で出土した、小山崎遺跡では最古の土器である(大川編2015)。野島式の土器は13次調査の高倉林道南の調査区から出土し、鶉が島台式の土器は高倉林道北の調査区で出土した(佐藤・大川2007)。素山上層式は低地東部(渋谷1997、大川編2015))と高倉林道北から出土している。いずれも断片的な破片資料であり、早期に住んだ小山崎の縄文人の生活の様子はよく判っていない。

前期に入ると東部低地の舌状台地突端付近は早くから陸地していた可能性があるが詳細は判っていない。前期の遺物包含層は深く厚く堆積している。

図12に示した前期初頭の上川名2式の土器は4次調査一区の最下層であるXⅣ層から出土した。

この層準からは先端が発芽予防のために処理されたコナラ(ドングリ)の種子が多量出土している。1次調査のT3東深堀区のIX層からは大木1式の土器が出土している。また、4次調査一区のX層以下では前期中葉の大木2a式がIX・VIII層からは大木2b式の土器が出土している(図12上部左)。また、IXb層は十和田火山の火山灰とされ、分析の結果十和田―八戸の2次堆積物の可能性が高いと判断されたが、土器の出土層準からは十和田―中楸とみてもいいのではないかと考えている。いずれ、再調査が必要であろう。

6次調査T区では前期中葉のヤマトシジミの小貝塚が検出された(図13)。また、墓墳の可能性のある落ち込みが検出され、人骨や副葬品と考えられる髪針が出土した(図14右下)。この人骨の窒素炭素同位対比からはサケの分布域にきわめて近いということが判明している(図15下)

大木3式土器は1次調査のT11北2深堀区のXIV層・XI層やT1北端深堀区VI層形出土している(図12左上から2)。

大木5式土器は1次調査のT3東深堀区VII層、T11北2深堀区のXI層、4次調査の一区VII層、5次調査のP2区IX層から出土している(図12下段)。

大木6式土器は4次調査一区VII上層、1次調査のT3東深堀区VII層などから出土している(図12下段)。調査資料は遊佐町教育委員会と山形県立博物館が保管している。

## (2) 金俣B遺跡

昭和41年に佐藤禎宏、加藤 稔氏の担当で酒田中央高等学校が発掘調査を行った。直径3mで円形に巡る9本の柱穴が発見され、竪穴住居跡として報告されている。早期末の縄文条痕文、表裏縄文土器等が出土している。

第11図51～53は縄文条痕文土器、54～58は表裏縄文土器、59・60は表裏より意図文土器である。いずれも、早期末の素山上層式に相当する。

調査資料は酒田市が保管している。

## (3) 吹浦遺跡

吹浦遺跡の発見は大正8(1919)年に遡る。地元の松田又彦氏が発見し、東北大学医学部の長谷部言人博士が現地で試掘調査を行って、吹浦一本木貝塚として報告を行った(長谷部1919)。その後2回の発掘調査が行われている。

最初の調査は昭和26年から28年まで4次にわたって致道博物館が実施した学術調査である。調査は1次が昭和26年8月30～31日、2次が昭和27年7月21～25日、3次が昭和28年4月3～7日、そして4次が昭和28年10月2～6日に行われた(柏倉・江坂他1955)。

この調査では道路の切り通しで発見された「洞窟」と台地上の竪穴住居跡などが調査された。この調査で海蝕洞とされたものは、台地の上から掘られた「フラスコ状土坑」であることが後の調査で明らかとなった(渋谷1985)。出土した土器は東北南部の大木式土器と北部の円筒式土器との中間的な様相を持つものとして、吹浦式土器の名前で呼ばれた。

2回目の調査は県教委による吹浦バイパス建設に伴う緊急発掘調査で、この調査も昭和58年から61年までの4次にわたった。1次は昭和58年6月6日～9月30日(渋谷・佐藤1984)、2次は昭和59年6月11日～10月9日(渋谷・長橋1985)、3次調査は1985年9月17日～11月16日、そして4次調査が昭和61年5月12日～8月30日(渋谷・黒坂1988)。

この発掘調査の結果を要約するとつぎのようになる。

- ① 吹浦遺跡は山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字堂屋39番地外に所在し、鳥海山の西裾のひとつが半島状となって南方に突出した標高5～16mの泥流台地上に立地する。遺跡面積は約38,000㎡で、今回の緊急発掘で、その東寄りの部分約5,000㎡の調査を行い、調査区の中央部から南端にか

けては平安時代の、また、台地の縁辺部では縄文時代の遺構が密集して発見された。両者とも調査時では県内では最大規模の集落であった。

②縄文時代の遺構は竪穴住居跡48軒、フラスコ状、袋状のもの173基を含む334基の土坑等が検出された。竪穴住居跡は、ほぼ同じ場所で数回～10回の建替があり、居住区域から外れてからは、土坑の営まれる区域となっていることが切り合い関係から明らかとなった。しかし、遺物の接合関係から、住居跡と土坑の同時存在が明らかになったものは一例だけで、特定の住居と同時存在の土坑群を抽出するまでには至らなかった。土坑群では遺物の接合によって4基の同時存在が確認された。

出土した土器は深鉢形土器でⅠ～Ⅴ群に大別され、前期末葉から中期初頭における土器群は従前から指摘されていたように、大木系、円筒系、関東・中部・北陸系が錯綜するものであることがなお一層明確になったが、そのなかでも今回の調査では中期初頭と中部・北陸系の資料の充実が目立った。しかし、その具体的なセット関係や、器種組成についての分析、検討は今後に残された課題とされた。その後の小林圭一氏の研究によって吹浦遺跡の縄文土器は大木5b式から大木6式5期まで継続し、大木6式前半は宮城や山形盆地の大木6式土器と比較すると、地域的な土器が多く、後半の大木6式4・5期では北陸方面と本州北部の円筒土器の影響を強く受けた土器が共伴するということが明らかとなった(小林2014)。図14・15・16上半に大木6式1期・2期の土器を示した。図16下半、図17には大木6式3期の土器を、図18・19には大木6式4・5期に相当する北陸方面、そして、東北北部の円筒土器の影響を受けた土器を図示した。

縄文時代前期末葉の吹浦遺跡の石器は図21～25に示した。石鏃、石錐、石槍、石匙、石篋、搔器、削器などの打製石器と磨製石斧、磨石、凹石、礫石錘、石皿、礫石器が出土しているが、その組成をみると、植物質食料の加工に使われたとみられる礫石器が全体の3分の2程度を占めている。堅果類・根茎類の貯蔵庫と考えられるフラスコ状土塘が多数検出されたことに符合するかのような石器組成となっている。

最初の調査の出土資料は致道博物館が、2回目の出土資料は県教委が山形県埋蔵文化財センターに保管している。

表-1 遊佐町の考古学・旧石器・縄文時代の調査・研究史関連年表

No.	年	遺跡名	記事・概要(論文名等)	文献
1	884 ~886	不明	飽海郡海浜、神宮司西浜、飽海郡諸神社に石鏃雨降る。	日本三代実録
2	1769 ~1798	神矢道	佐藤藤左衛門・藤蔵親子が西山の砂丘で石鏃2升採取。	佐藤家文書
3	1981		松森胤保、藤崎産の石鏃を作図	弄石余談
4	1892	丸池付近	羽柴雄輔「羽前飽海郡箕輪丸池近傍の石器」	東京人類学雑誌8-79
5	1894	藤崎	八木樊三郎「本邦発見石鏃形状の分類、其三」	東京人類学雑誌9-96
6	1894	落伏・増(栴)川	羽柴雄輔「羽前飽海郡尾落伏及増川上山の遺物」	東京人類学雑誌9-104
7	1899	丸池・神矢田他	高野榮明「山形県飽海郡高瀬方面石世遺物展覧會第一回概況」	東京人類学雑誌14-160
8	1919	吹浦	長谷部言人「羽後吹浦一本木貝塚」	人類学雑誌34-8
9	1934	神矢田	樋口清之「有孔石斧の一例」	史前学雑誌6-1
10	1951 ~53	吹浦	致道博物館による本県での最初の科学的発掘調査が柏倉亮吉を調査担当者として実施された。	文献14
11	1953	吹浦	斎藤弘吉「吹浦村遺跡発掘家犬骨について」	羽陽文化60
12	1954	三崎山	11月に三崎山で青銅刀が発見された。	
13	1955	三崎山	3月29~30日に柏倉亮吉他10数人で三崎山の踏査。	文献16・17
14	1955	杉沢	酒井忠純・江坂輝弥「山形県飽海郡蔵岡村杉沢発見の大洞C2式の土偶の出土状態について」	考古学雑誌39-3/4
15	1955	吹浦	柏倉亮吉・江坂輝弥・酒井忠純・酒井忠一・加藤稔『吹浦遺跡』	
16	1956	三崎山	柏倉亮吉「青銅刀を追うの記」	荘内文化4
17	1956	三崎山	川崎浩良「三崎山出土の青銅刀」	羽陽文化30
18	1960	三崎山	柏倉亮吉「三崎山出土の青銅刀」	東北考古学2
19	1966	金俣B	加藤稔・佐藤禎宏が担当となり、酒田中央高校の生徒と発掘調査が行われた。	文献19
20	1966	月の原B	佐藤禎宏「資料紹介：月の原B地点の先石器文化」	庄内考古学3
21	1966	金俣B	佐藤禎宏「拇指状石器を伴う金俣遺跡B地点」	庄内考古学4
22	1967	金俣B	佐藤禎宏「庄内平野周縁部における先石器文化」	『山形県の考古と歴史-柏倉亮吉教授還暦記念論文集』山形史学会
23	1967	金俣F	佐藤禎宏「金俣遺跡F地点採集のナイフ形石器」	庄内考古5
24	1968	金俣B	酒田中央高等学校社会研究部「庄内地方における考古学的研究(第4報)-遺跡の分布と性格(2)」	同左
25	1970 ~71	神矢田	遊佐町教委が主体となり佐藤禎宏・佐藤鎮雄により1970年5月から71年10月まで5次にわたる発掘調査が行われた。	文献26・27
26	1971	神矢田	佐藤禎宏・佐藤鎮雄『神矢田遺跡-第1次・2次発掘調査報告-』	
27	1972	神矢田	佐藤禎宏・佐藤鎮雄『神矢田遺跡-第3次・4次・5次発掘調査と考察-』	
28	1972	町内70遺跡	柏倉亮吉・加藤稔・佐藤禎宏・佐藤鎮雄「V 鳥海山・飛島の考古鳥海山麓の考古学的調査-石器時代遺跡を中心に」	『鳥海山・飛島』山形県総合学術調査会
29	1973	町内42遺跡	山形県教育委員会が庄内広域営農団地農道整備事業の分布調査で遊佐町内で42ヶ所の遺跡の存在を確認。	文献30
30	1974	町内42遺跡	佐藤庄一・名和達朗『庄内広域営農団地農道整備事業関係遺跡分布調査報告書』	県第1集
31	1976	神矢道	佐藤禎宏「遊佐町神矢道遺跡について」	庄内考古13
32	1976	三崎山他	佐藤禎宏『庄内を掘る』	
33	1976	宮山坂F	佐藤禎宏・中山芳昭「遊佐町宮山坂F遺跡について」	山形考古学会第9回大会研究発表要旨
34	1980	吹浦地区19遺跡	山形県教育委員会が国道7号線吹浦バイパス建設工事予定地内周辺の分布調査を実施し、19遺跡を確認。	文献35
35	1981	吹浦地区19遺跡	渋谷孝雄・阿部明彦『分布調査報告書(8)』	県第45集
36	1982	宮山坂F	佐藤禎宏「宮山坂F遺跡の細石器」	山形考古3-3
37	1983	吹浦	山形県教育委員会が国道7号線吹浦バイパス建設工事に伴い吹浦遺跡の第1次緊急発掘調査を実施	文献37
38	1984	吹浦	渋谷孝雄・佐藤正俊『吹浦遺跡第1次緊急発掘調査報告書』	県第82集
39	1984	吹浦	山形県教育委員会が国道7号線吹浦バイパス建設工事に伴い吹浦遺跡の第2次緊急発掘調査を実施	文献39
40	1985	吹浦	渋谷孝雄・長橋 至『吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書』	県第93集
41	1985	吹浦	渋谷孝雄「縄文前期のプラスチック状土壘群」	季刊考古学11
42	1985	吹浦	渋谷孝雄「吹浦遺跡の再検討」	東北史学会発表要旨
43	1986	吹浦	山形県教育委員会が国道7号線吹浦バイパス建設工事に伴い吹浦遺跡の第3次緊急発掘調査を実施	文献44
44	1987	吹浦	山形県教育委員会が国道7号線吹浦バイパス建設工事に伴い吹浦遺跡の第4次緊急発掘調査を実施	文献44
45	1988	吹浦	渋谷孝雄・黒坂雅人『吹浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書』	県第120集
46	1990	金俣I・K	山形県教育委員会が国営農地開発事業に伴い金俣I・K遺跡を試掘調査	文献46
47	1991	金俣I他8遺跡	渋谷孝雄・安部実編『分布調査報告書(18)』	県第163集
48	1992	金俣I・K	山形県教育委員会が国営農地開発事業に伴い金俣I・K遺跡の発掘調査を実施	文献50

表-2 遊佐町の考古学・旧石器・縄文時代の調査・研究史関連年表

No.	年	遺跡名	記事・概要(論文名等)	文献
49	1992	小山崎	山形県教育委員会がほ場整備事業に伴い小山崎遺跡の試掘調査を実施。	文献53
50	1992	舟森	山形県教育委員会がほ場整備事業に伴い舟森遺跡の試掘調査を実施。	文献53
51	1993	金保 I・K	長橋至・水戸弘美『金保I・K遺跡・山海窠跡群第3次発掘調査報告書』	県第183集
52	1995	小山崎	山形県教育委員会がほ場整備事業に伴う用排水路を対象として小山崎遺跡の発掘調査を実施。	文献53、54、56、57、60
53	1995	舟森	山形県教育委員会がほ場整備事業に伴う用排水路を対象として舟森遺跡の発掘調査を実施。	文献53
54	1996	小山崎他3遺跡	渋谷孝雄・長橋至・名和達朗『分布調査報告書(23)』	県第197集
55	1996	小山崎	渋谷孝雄「〈速報〉山形県遊佐町小山崎遺跡」	月刊考古学ジャーナル400
56	1996	竜沢山	山形県教育委員会が一般農道整備事業に伴い竜沢山遺跡の試掘調査を実施。	文献56
57	1997	竜沢山・小山崎	渋谷孝雄他『分布調査報告書(24)』	県第198集
58	1998	小山崎	渋谷孝雄他『分布調査報告書(25)』	県第199集
59	1998	竜沢山	山形県教育委員会が一般農道整備事業に伴い竜沢山遺跡の発掘調査を実施。	文献60
60	1998	小山崎	山形県教育委員会(山形県立博物館)が国庫補助を受け(重要遺跡確認調査)小山崎遺跡の第2次調査を実施。	文献61、74、97
61	1999	竜沢山・小山崎	渋谷孝雄他『分布調査報告書(26)』	県第200集
62	1999	小山崎	阿部明彦『小山崎遺跡-第2次発掘調査概報』	山形県立博物館
63	1999	小山崎	山形県教育委員会(山形県立博物館)が国庫補助を受け(重要遺跡確認調査)小山崎遺跡の第3次調査を実施。	文献63、74、97
64	2000	小山崎	阿部明彦『小山崎遺跡-第3次発掘調査概報』	山形県立博物館
65	2000	小山崎	(財)山形県埋蔵文化財センターが緊急雇用対策事業で山形県から委託を受け小山崎遺跡の第4次発掘調査を実施。	文献91
66	2000	小山崎	山形県教育委員会(山形県立博物館)が国庫補助を受け(重要遺跡確認調査)小山崎遺跡の第5次調査を実施。	文献69、74、97
67	2000	懐ノ内F	渋谷孝雄が大川貴弘の協力を得て懐ノ内F遺跡の発掘調査を実施。	文献67、71
68	2000	懐ノ内F	渋谷孝雄・大川貴弘「山形県懐ノ内F遺跡の発掘調査」	第14回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集
69	2001	小山崎	渋谷孝雄・竹田純子『小山崎遺跡第4次発掘調査報告書』	山埋文報第91集
70	2001	小山崎	安部実『小山崎遺跡第5次発掘調査概要報告書』	山形県立博物館
71	2001	小山崎	山形県教育委員会(山形県立博物館)が国庫補助を受け(重要遺跡確認調査)小山崎遺跡の第6次調査を実施。	文献72、74、97
72	2001	懐ノ内F	大川貴弘「山形県遊佐町懐ノ内F遺跡の発掘調査報告」	庄内考古学21号
73	2001	吹浦	小林圭一「山形県における縄文時代集落の諸様相」	縄文時代文化研究会『列島における縄文時代集落の諸様相』
74	2002	小山崎	安部実『小山崎遺跡第6次発掘調査概要報告書』	山形県立博物館
75	2002	小山崎	山形県教育委員会(山形県立博物館)が国庫補助を受け(重要遺跡確認調査)小山崎遺跡の第7次調査を実施。	文献74
76	2003	小山崎	安部実『小山崎遺跡発掘調査報告書』	山形県立博物館
77	2003	柴燈林2、柴燈林	遊佐町教育委員会が緊急雇用対策事業で小山崎遺跡発掘調査団に委託し7月に小山崎遺跡背後の山間部の試掘調査に着手。第8次調査とした。	文献79
78	2003	柴燈林、牛渡1、牛渡2、柴燈林3、七曲道	小山崎遺跡発掘調査団が7月に続き背後の山間部の試掘調査を実施。第9次調査とした。新たに4遺跡を発見・登録した。	文献79
79	2004	小山崎	遊佐町教育委員会が2003年に続き緊急雇用対策事業で小山崎遺跡発掘調査団に委託し、6月から8月にかけて低地部東部と舌状台地東側低地を第10次調査として発掘。	文献79
80	2004	柴燈林4、5	10月に山麓部の試掘調査を行い2遺跡を発見・登録した。第11次調査とした。	文献79
81	2005	小山崎・柴燈林他7遺跡	佐藤禎宏『小山崎遺跡発掘調査報告書-第8~11次調査概要報告書-』	遊佐埋文報第4集
82	2005	小山崎、物見峠、小谷地、物見峠C	遊佐町教育委員会が国庫補助を受け直営の調査を開始。12次調査とし、低地に1箇所、舌状台地から低地までの斜面部に2箇所の調査区を設定した。この他、遺跡の西方の台地で3箇所の試掘を行い物見峠C遺跡を発見登録した。	文献81、97
83	2006	小山崎他3遺跡	佐藤禎宏・大川貴弘『小山崎遺跡第12次調査報告書』	遊佐埋文報第5集
84	2006	小山崎	大川貴弘「山形県遊佐町小山崎遺跡第12次調査」	月刊考古学ジャーナル547
85	2006	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の2年目の13次調査。高倉林道の南の舌状台地と北の斜面部に試掘溝を入れ、その後、舌状台地に3ヶ所、斜面部に2ヶ所の調査区を設定した。特に高倉林道北の斜面部が注目された。	文献84
86	2007	小山崎	佐藤禎宏・大川貴弘『小山崎遺跡第13次調査報告書』	遊佐埋文報第6集

表-3 遊佐町の考古学・旧石器・縄文時代の調査・研究史関連年表

No.	年	遺跡名	記事・概要(論文名等)	文献
87	2007	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の3年目の14次調査。高倉林道の北の斜面部のトレンチ調査及びⅠ・Ⅱ区の面的調査、丸池北方の斜面部の試掘調査を実施。斜面を切土して平地を作出し、建物を建てていた様子が窺えた。	文献89、97
88	2007	小倉向	遊佐町教育委員会が鳥海山史跡調査報告書作成の一貫として小倉向遺跡の試掘調査を実施。	文献88
89	2018	遊佐町内121遺跡	佐藤禎宏「第一編 原始時代の遊佐」旧石器・縄文時代の遺跡数は121ヶ所。	遊佐町史 上巻
90	2008	小倉向	大川貴弘・筒井裕・友野毅『鳥海山に関する調査報告書 A report about the Mt. Chokai - 遺跡の試掘調査と歴史的背景に関する報告 -』	遊佐文化財報第1集
91	2008	小山崎	佐藤禎宏・大川貴弘『小山崎遺跡第14次調査報告書』	遊佐埋文報第7集
92	2008	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の4年目の15次調査。高倉林道の北の斜面部にⅠ・Ⅱ区を設定し面的調査を実施。中期末葉の堅穴建物を検出。	文献91、97
93	2009	小山崎	佐藤禎宏・大川貴弘『小山崎遺跡第15次調査報告書』	遊佐埋文報第8集
94	2009	小山崎	佐藤禎宏・大川貴弘「山形県小山崎低湿地遺跡と斜面の集落」	日本考古学協会第74回総会研究発表要旨
95	2009	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の5年目の16次調査。高倉林道の北の斜面部に設定した面的調査区で実施。中期から後期の堅穴建物を10棟以上検出。	文献94、97
96	2009	小山崎	佐藤禎宏・大川貴弘『小山崎遺跡第16次調査報告書』	遊佐埋文報第9集
97	2010	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の6年目の17次調査。総括報告書作成のためのボーリング調査を4ヶ所で行った。	文献97
98	2011	小山崎	遊佐町教育委員会の国庫補助事業の7年目の18次調査。総括報告書作成で疑問が生じた水辺の遺構・斜面部から水辺に至る地区の再発掘を実施。	文献97
99	2014	吹浦	小林圭一「吹浦遺跡の縄文土器—今村啓示氏の研究に学ぶ山形県内の縄文時代前期末葉の土器群—」	東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要13
100	2015	小山崎	大川貴弘編『小山崎遺跡発掘調査報告書—総括編—』	遊佐埋文報第10集
101	2019	小山崎	渋谷咲智・石船夕佳・本間加世子・米田穰『小山崎遺跡発掘調査報告書—総括編2—』	遊佐埋文報第11集
102	2019	杉沢C	山形県教育委員会が農地整備事業に伴う杉沢C遺跡の試掘調査を実施。	文献110
103	2019	水林下	山形県教育委員会が一般国道7号遊佐象潟道路建設工事に伴う水林下遺跡の試掘調査を実施。	文献110
104	2020	小山崎	令和2年3月10日付けの文部科学省告示第17号で国の史跡に指定された。	
105	2020	杉沢C	(公財)山形県埋蔵文化財センターが農地整備事業に伴う杉沢C遺跡の発掘調査を実施。	文献106、114
106	2020	杉沢C	山形県が農地整備事業に伴う杉沢C遺跡の試掘調査を実施。	文献110
107	2020	水林下	山形県が一般国道7号遊佐象潟道路建設工事に伴う水林下遺跡の試掘調査を実施。	文献110
108	2020	水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センターが一般国道7号遊佐象潟道路建設工事に伴う水林下遺跡の発掘調査を実施。	文献106
109	2021	杉沢C・水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センター 年報 令和2年度	
110	2021	杉沢C	(公財)山形県埋蔵文化財センターが農地整備事業に伴う杉沢C遺跡の第2次発掘調査を実施。	文献111、114
111	2021	水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センターが一般国道7号遊佐象潟道路建設工事に伴う水林下遺跡の第2次発掘調査を実施。	文献111
112	2021	神矢田	山形県が農地整備事業に伴う神矢田遺跡の試掘調査を実施。	文献115
113	2021	杉沢C、水林下	竹田純子他『分布調査報告書(47)』	県第226集
114	2022	杉沢C・水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センター 年報 令和3年度	
115	2022	小山崎	史跡小山崎遺跡 保存活用計画書が刊行された。	遊佐町教育委員会
116	2022	杉沢C、水林下	竹田純子他『分布調査報告書(48)』	県第227集
117	2022	水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センターが一般国道7号遊佐象潟道路建設工事に伴う水林下遺跡の第3次発掘調査を実施。	文献116
118	2023	神矢田、大楯	竹田純子他『分布調査報告書(49)』	県第228集
119	2023	水林下	(公財)山形県埋蔵文化財センター 年報 令和4年度	
120	2023	杉沢C	菅原哲文・草野潤平・小林圭一『杉沢C遺跡第1・2次発掘調査報告書』	山埋文報第246集
121	2024	小山崎	史跡小山崎遺跡 整備基本計画書が刊行された。	遊佐町教育委員会



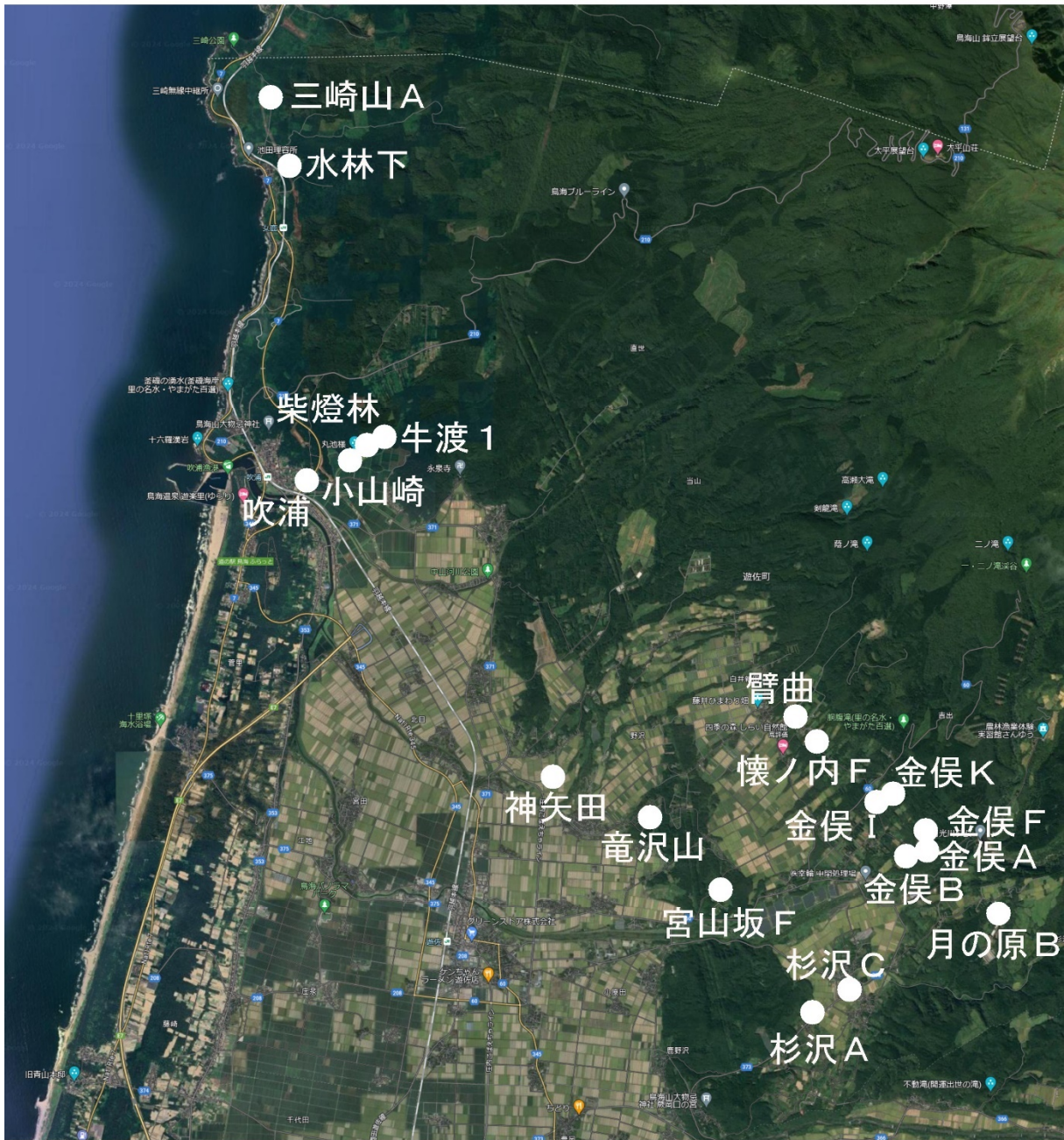


図1 「遊佐町の考古学 I」 関係遺跡位置図

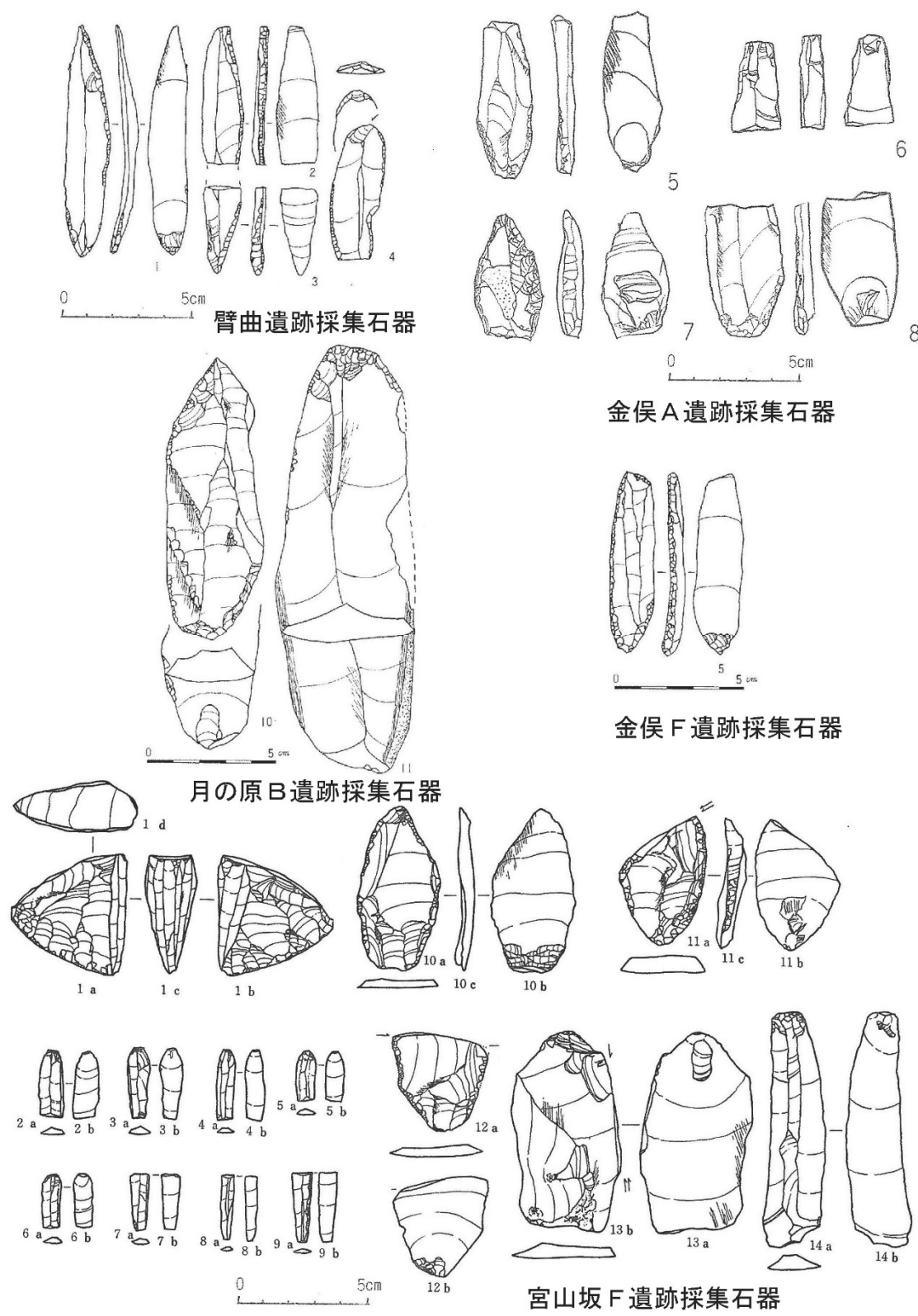
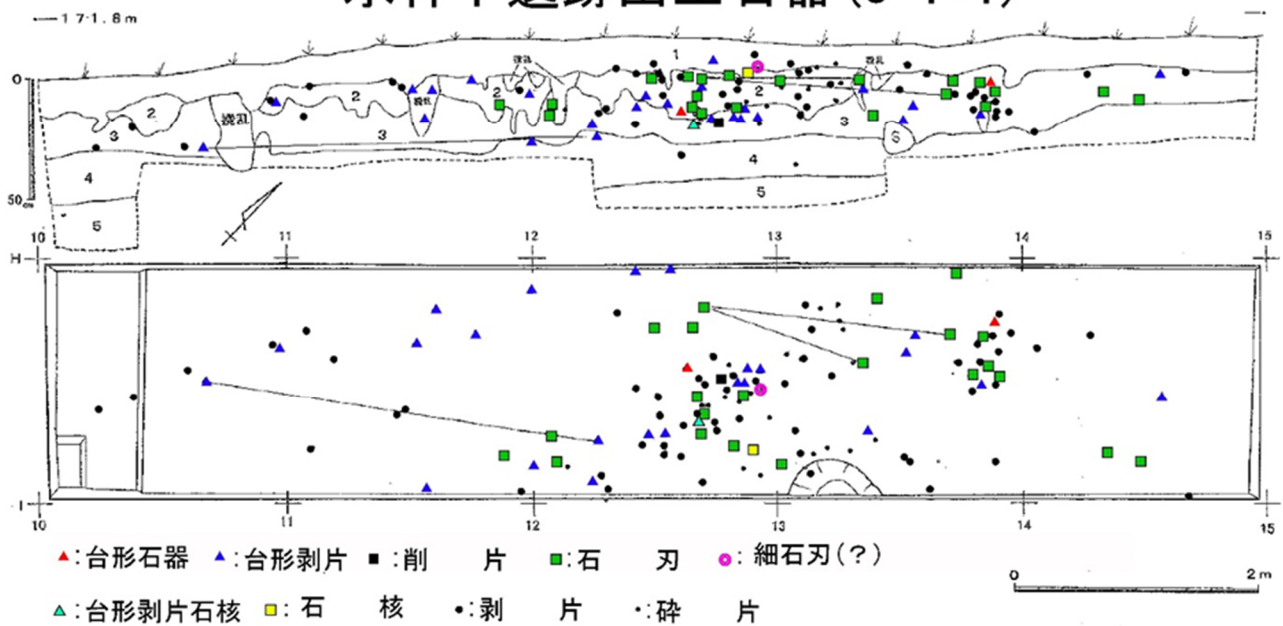


図2 遊佐町内で採集された旧石器



### 水林下遺跡出土石器 (S=1:1)



### 懐ノ内F遺跡調査区の石器分布図

図3 水林下遺跡出土石器・懐ノ内F遺跡旧石器分布図

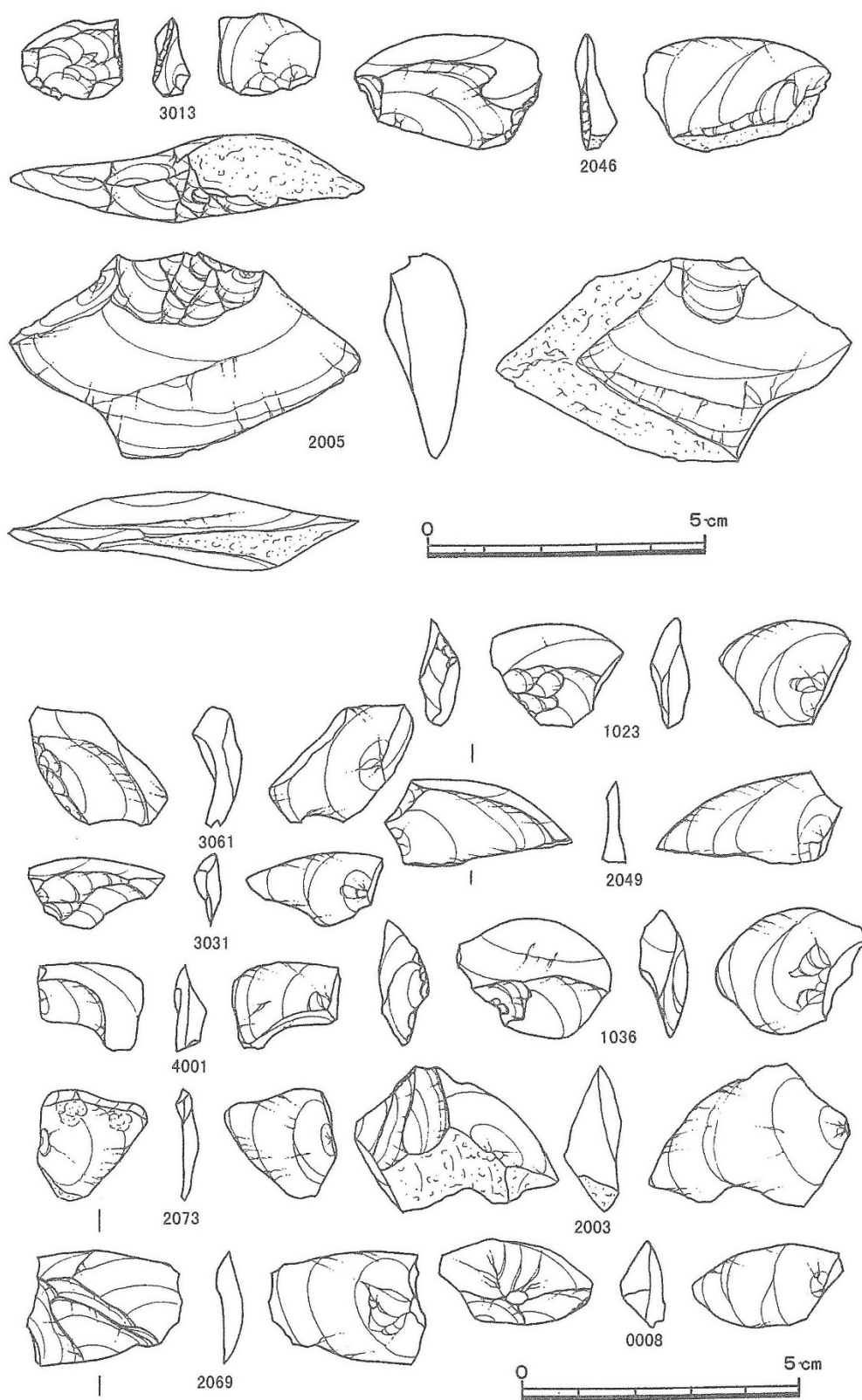


図4 懐ノ内F遺跡出土米ヶ森型台形石器・台形剥片石核・台形剥片

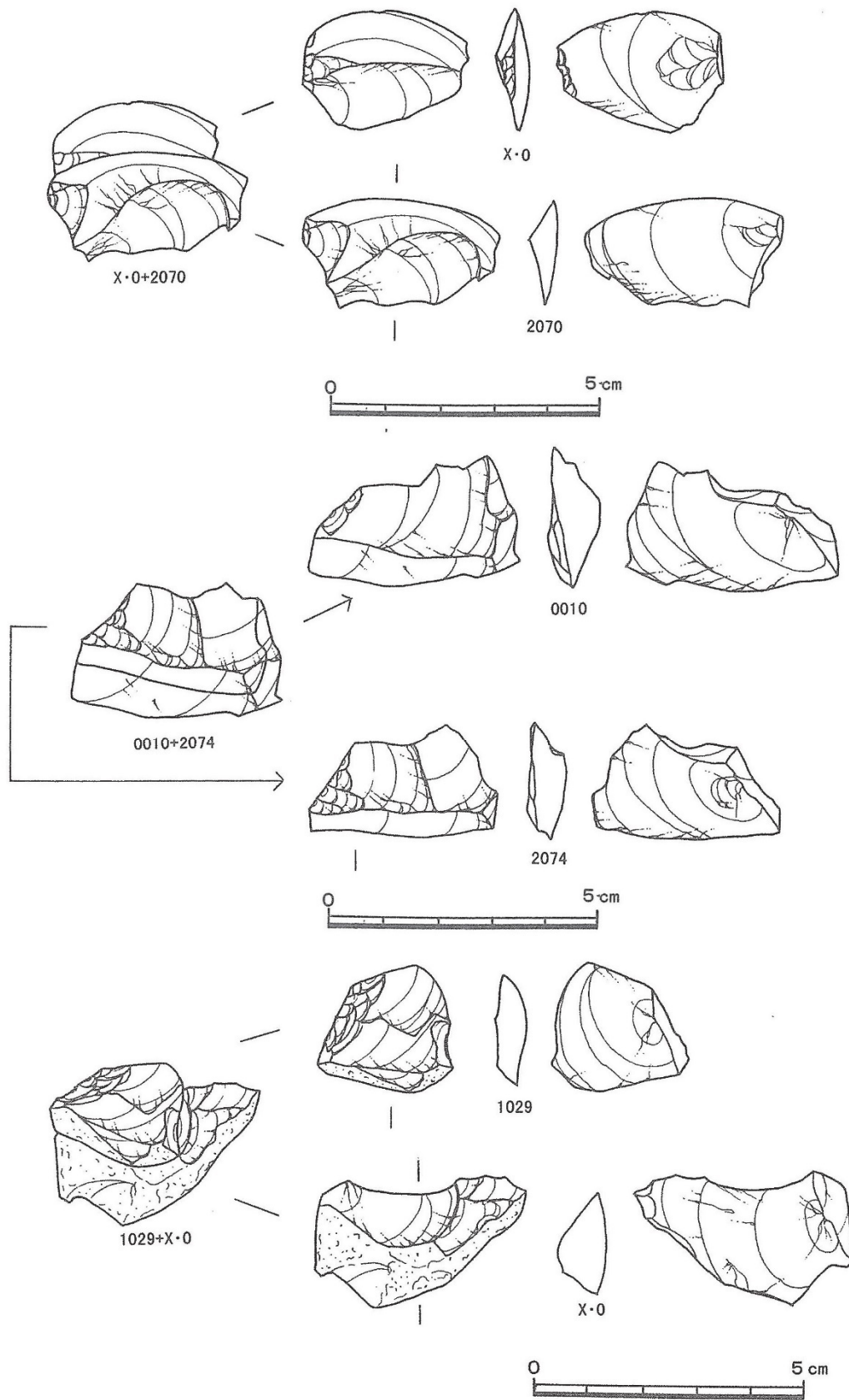


图5 懐ノ内F遺跡出土台形剥片接合資料

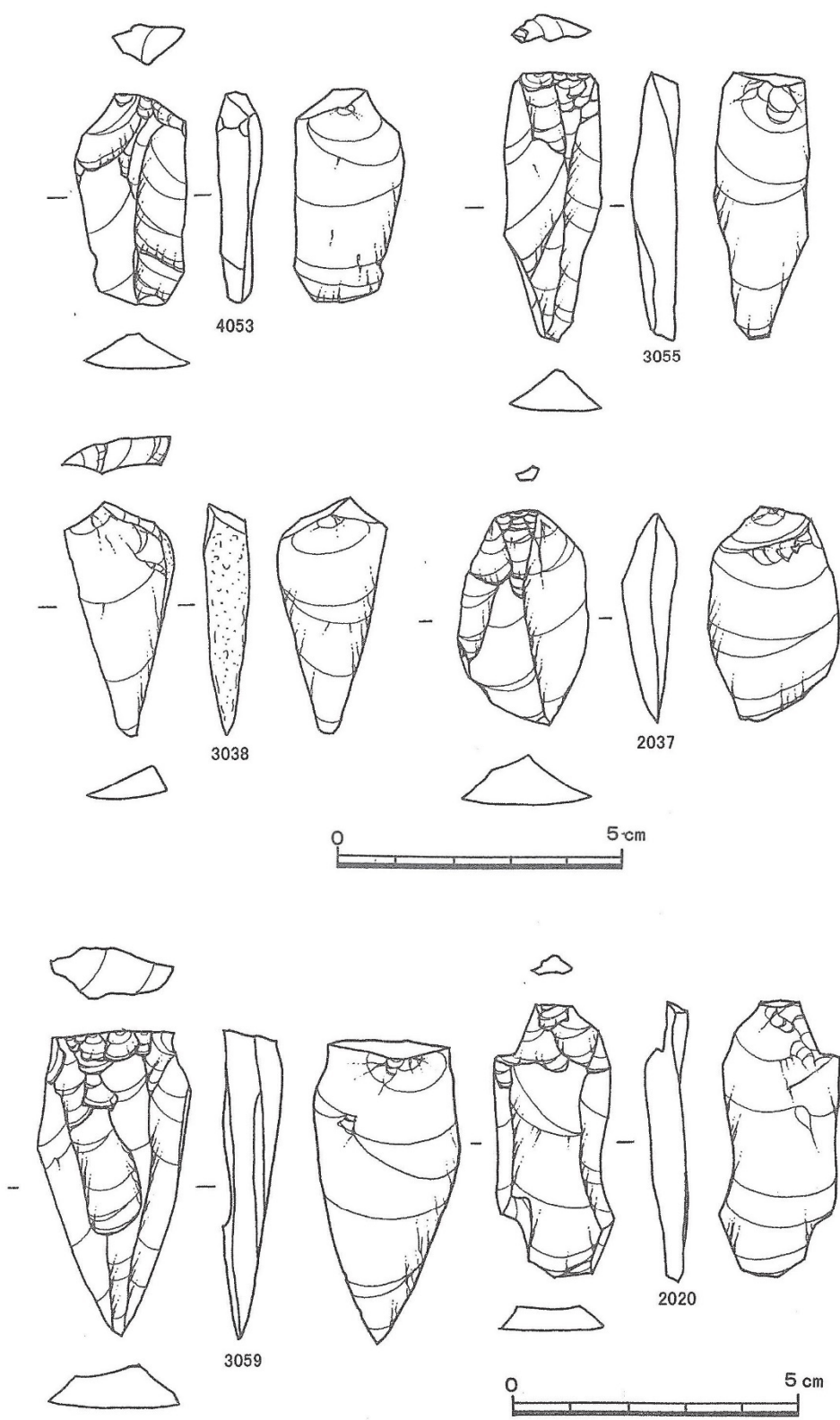


図6 懐ノ内F遺跡出土石刃 1

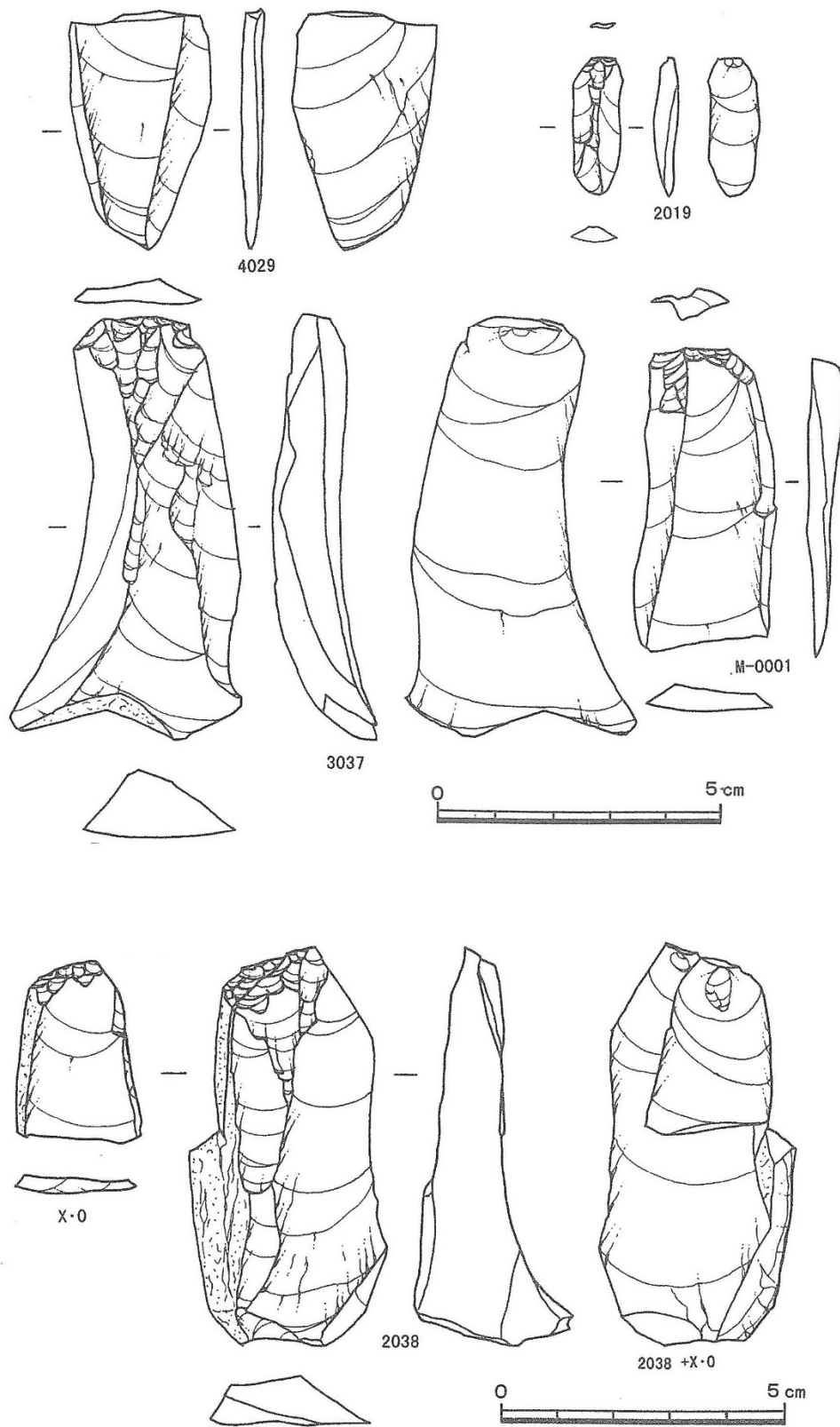


図7 懐ノ内F遺跡出土石刃2・石刃接合資料2

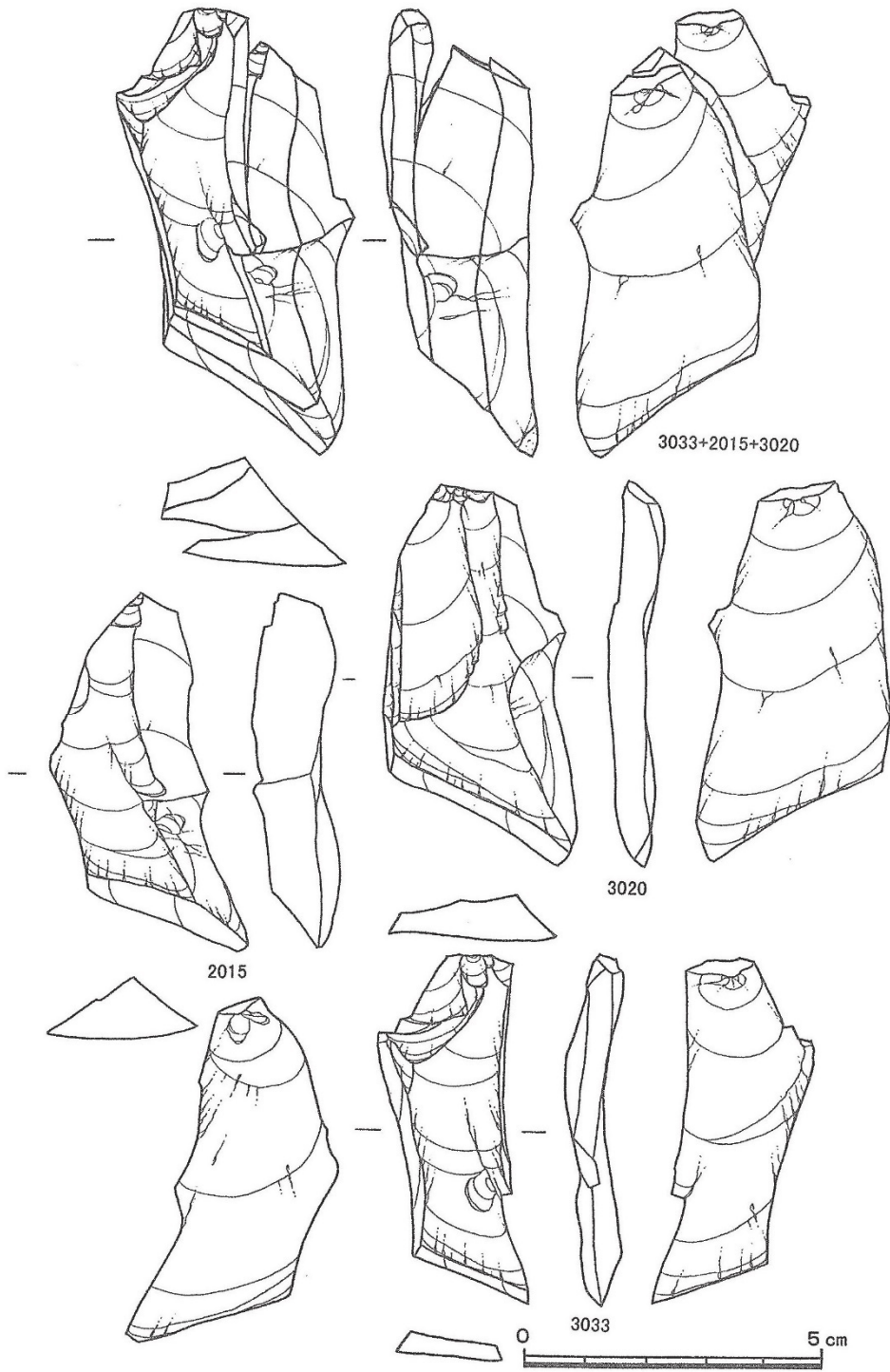


図8 懐ノ内F遺跡出土石刃接合資料2





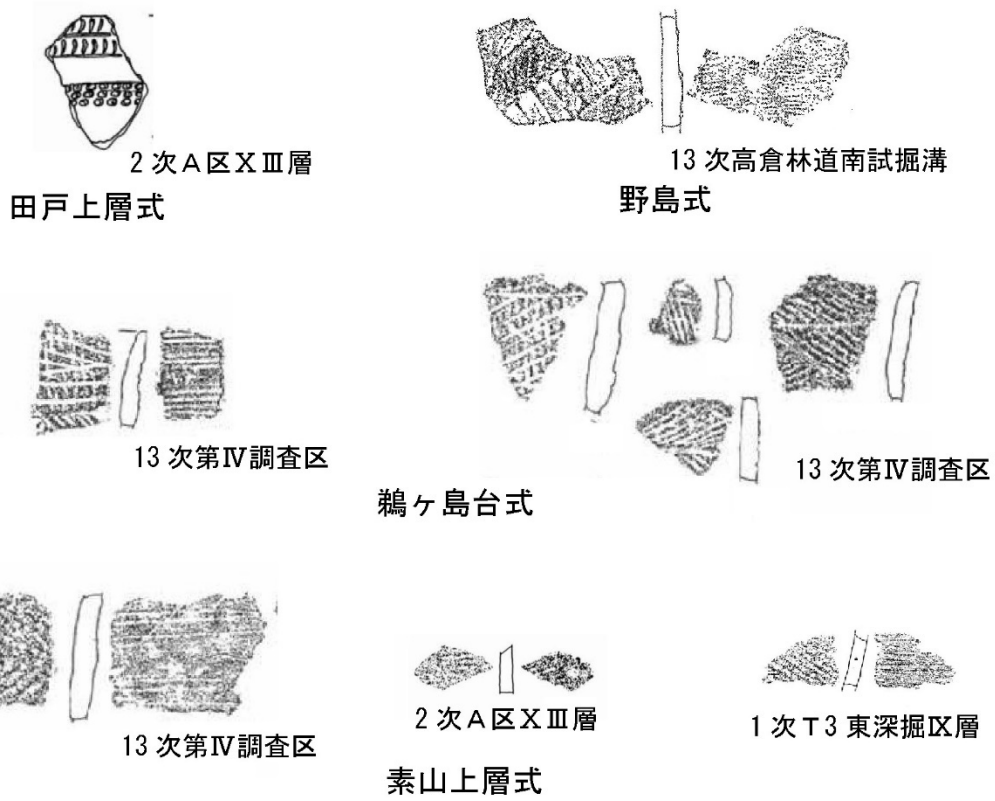


図 10 小山崎遺跡の早期の土器



図 11 金俣B遺跡の早期末葉の土器

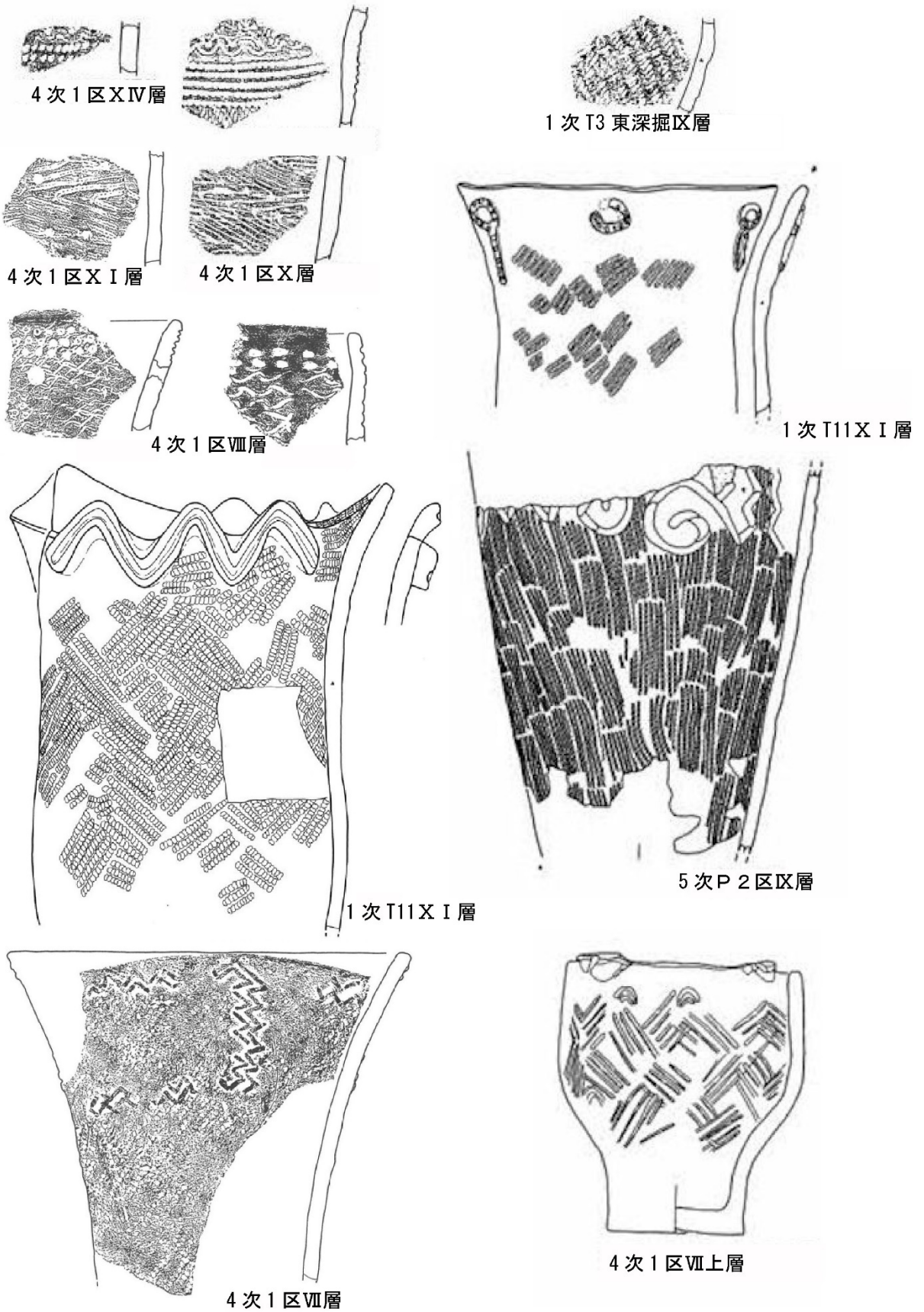


図 12 小山崎遺跡前期初頭から後葉の土器



図13 小山崎遺跡6次調査 T区前期中葉の貝塚



S = 1/2

6次T区の前期中葉の貝塚のシジミ

S = 1/1



4次一区前期初頭のコナラ



4次一区の前期のクルミ



カボチャ近似種画像 (S=2/1)  
(画像提供：吉川純子氏)



6次T区の鹿角製髪針

図14 小山崎遺跡の前期の木製品と動植物遺体



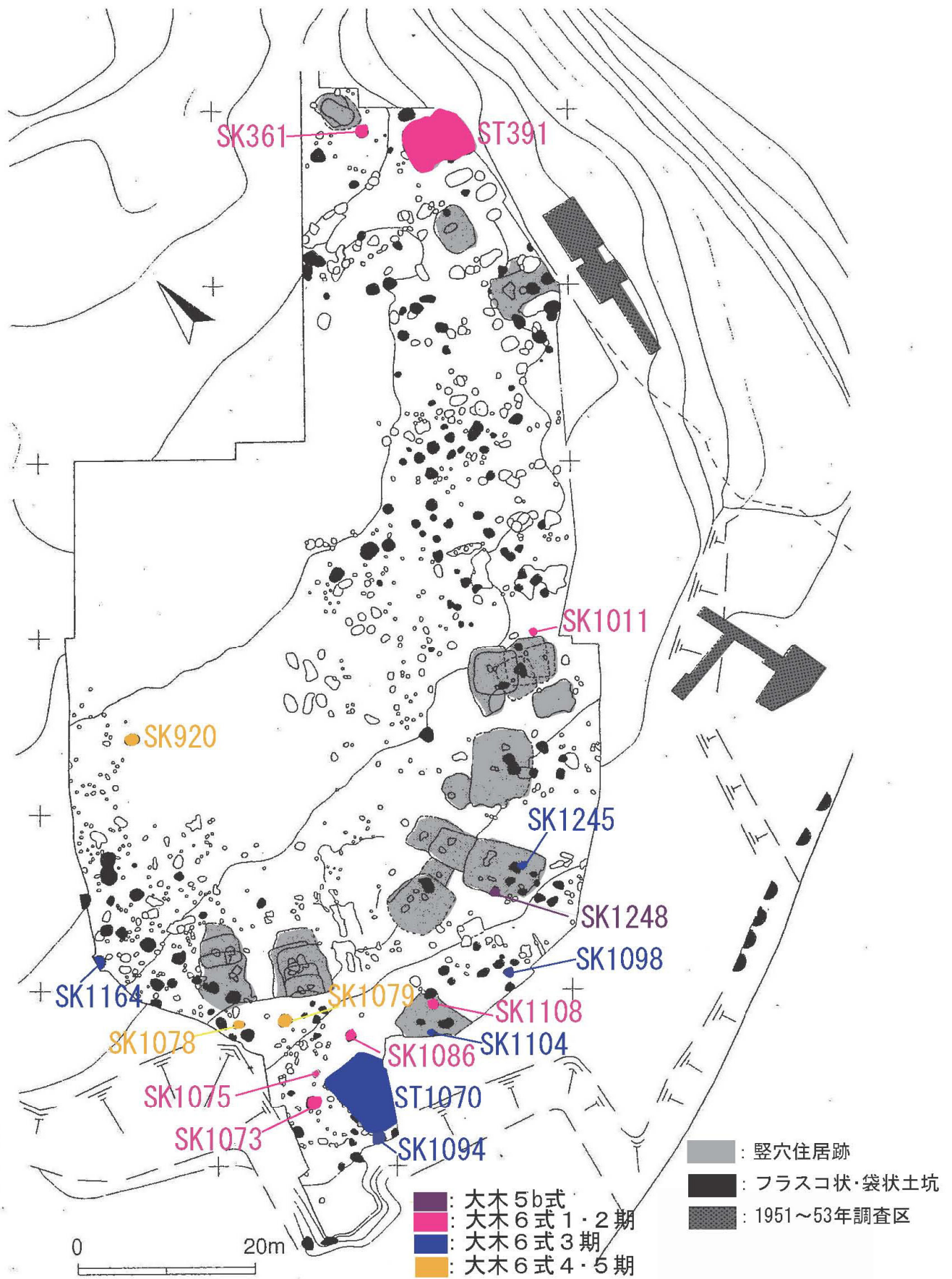
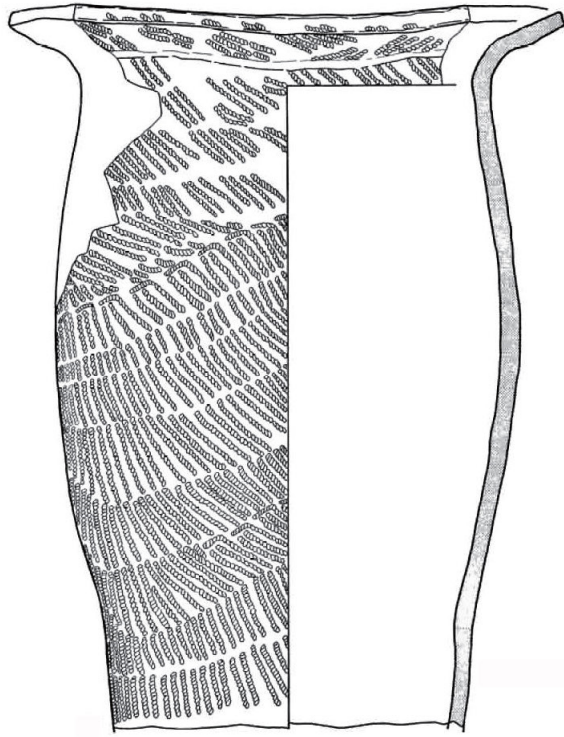
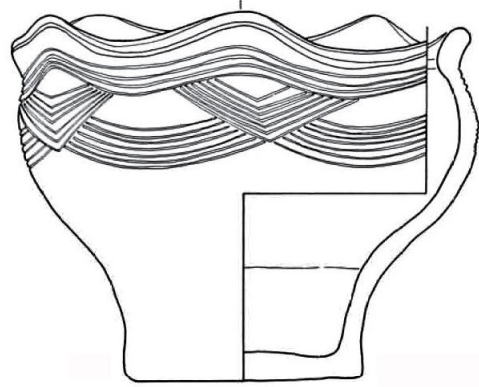


図16 吹浦遺跡の縄文時代前期後半の遺構配置図

(小林圭一2001 第5図から)



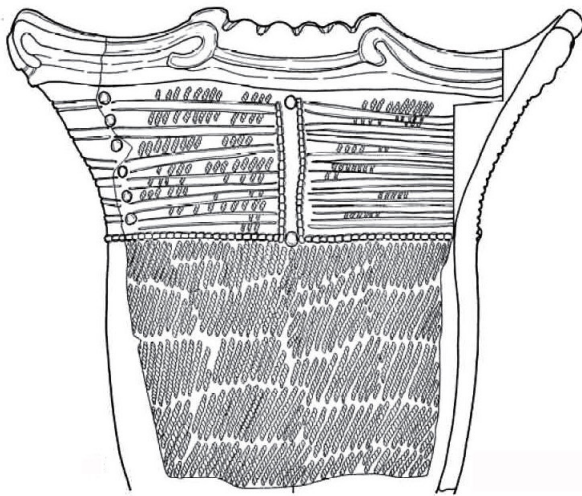
大木 6 式 1 期 (2 次 ST391a)



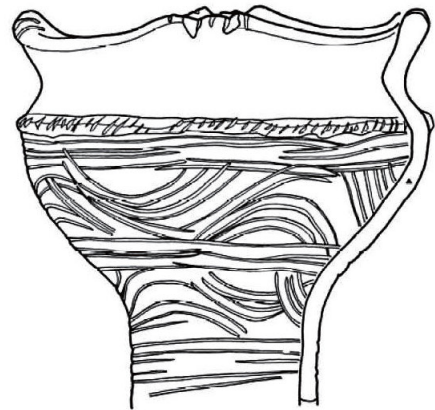
大木 6 式 1 期 (2 次 ST391a)



大木 6 式 1 期 (2 次 ST391c)



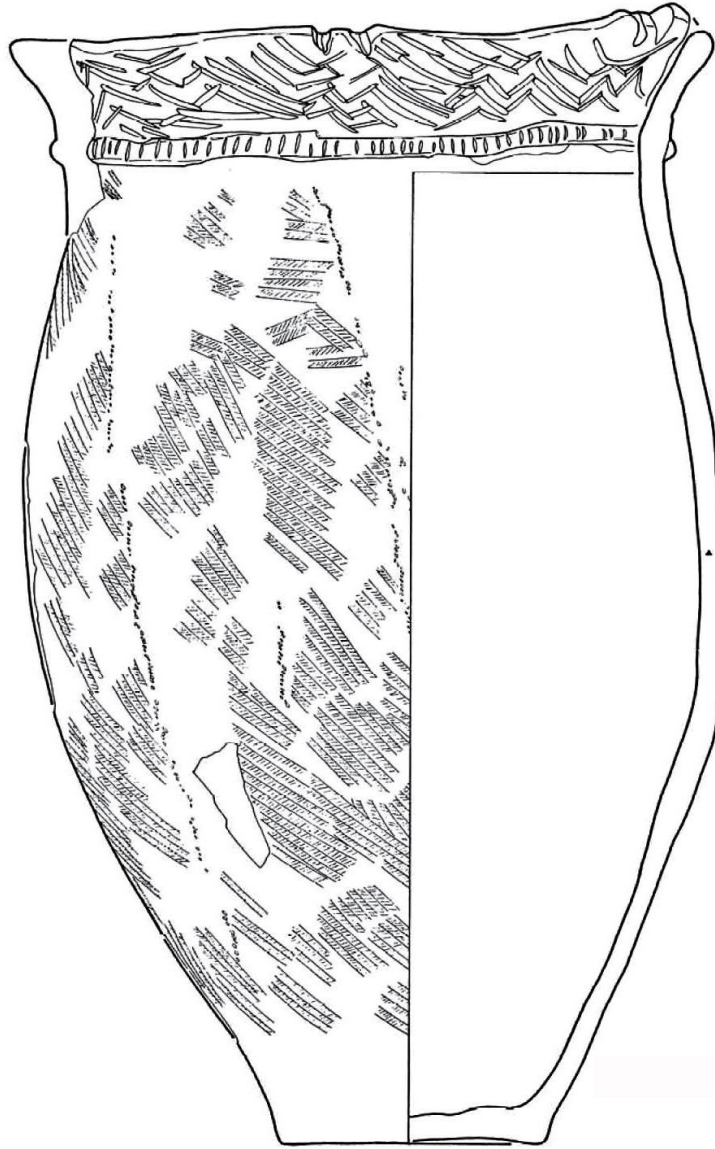
大木 6 式 2 期 (2 次 SK361)



大木 6 式 1 ~ 2 期 (3・4 次 SK1108)

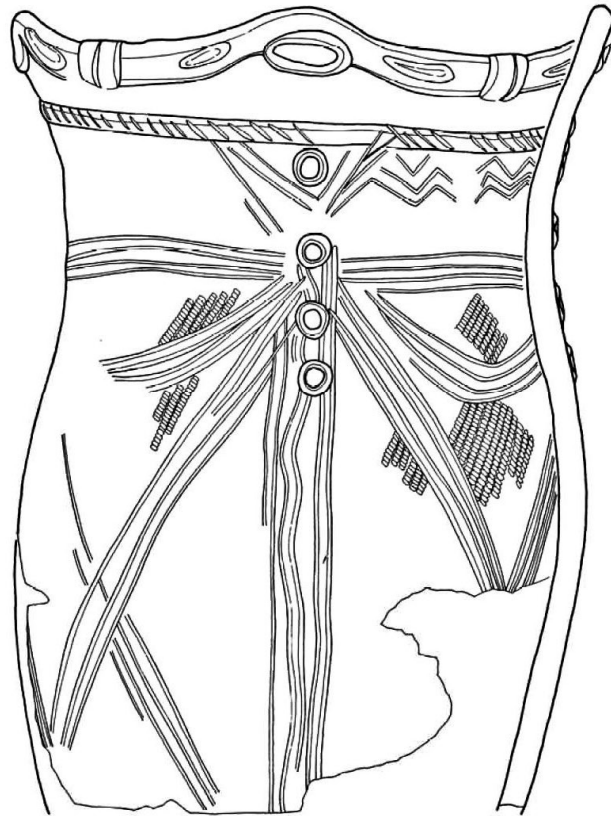
図 17 吹浦遺跡出土前期末葉の土器 1



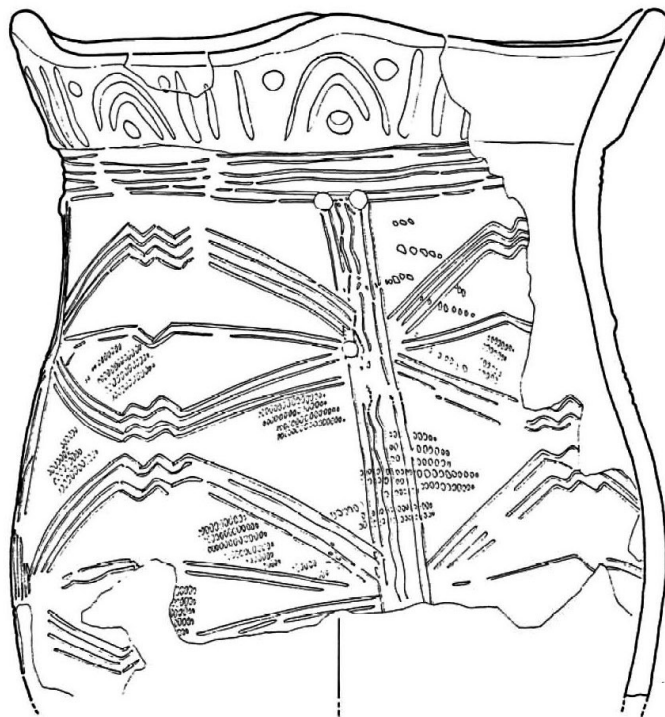


大木6式1～2期(3・4次SK1108)

図18 吹浦遺跡出土前期末葉の土器2

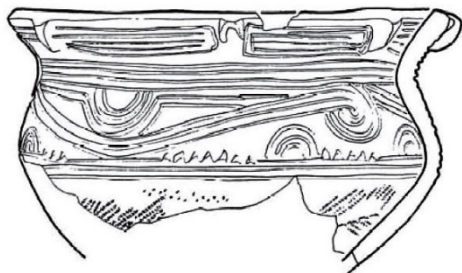


大木6式2期(3・4次SK1086)

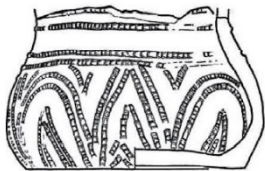


大木6式3期(SK1098)

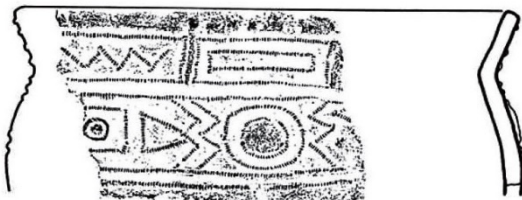
図 19 吹浦遺跡出土前期末葉の土器 3



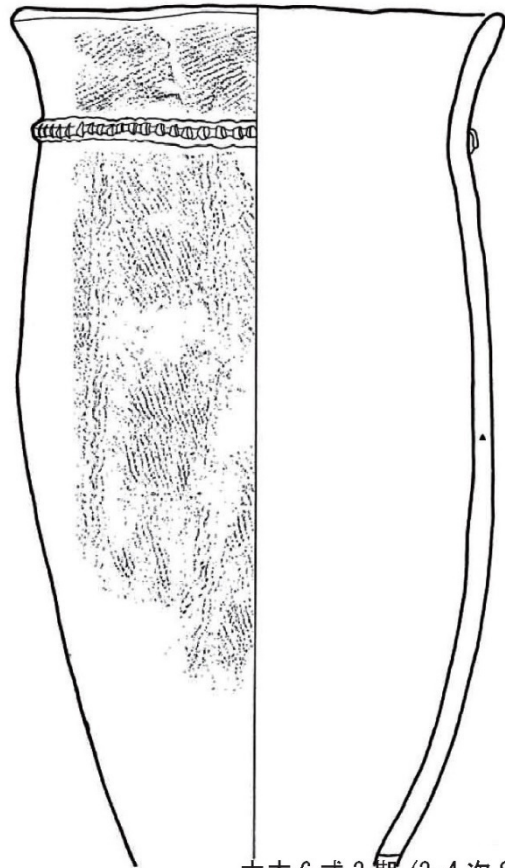
大木 6 式 3 期 (3·4 次 SK1098)



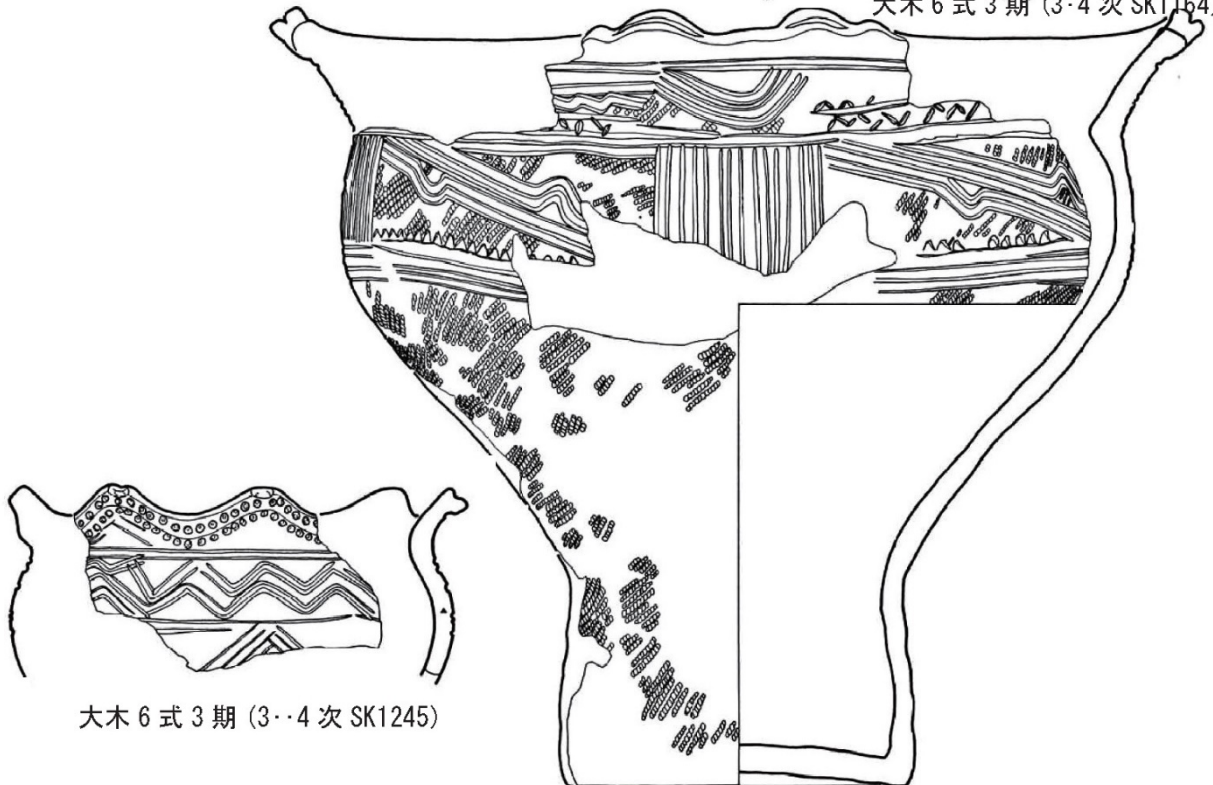
大木 6 式 3 期 (真脇式) (3·4 次 SK1104)



大木 6 式 3 期 (3·4 次 SK1245)



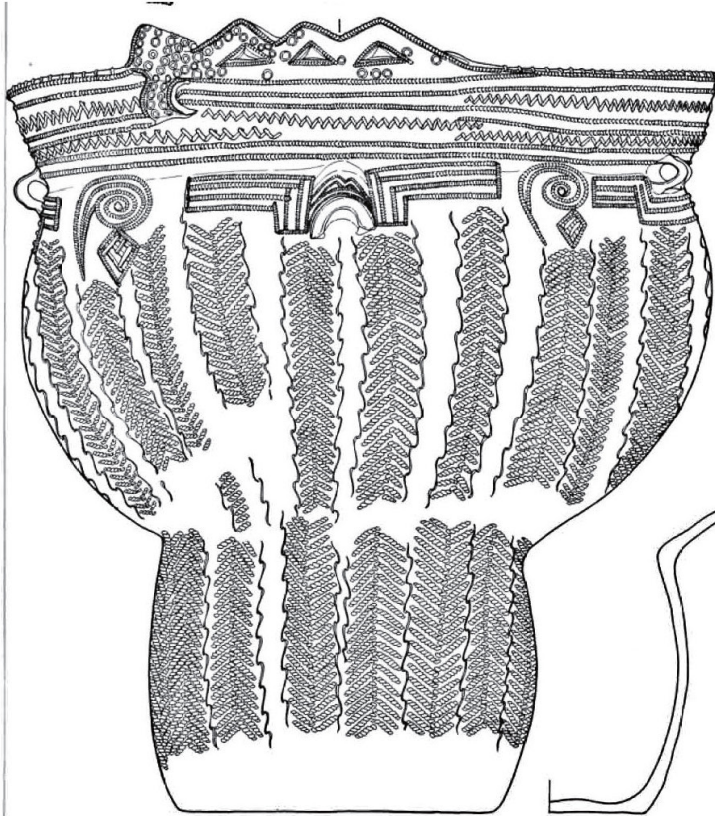
大木 6 式 3 期 (3·4 次 SK1164)



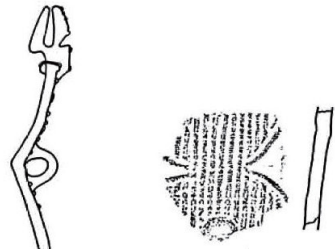
大木 6 式 3 期 (3·4 次 SK1245)

大木 6 式 3 期 (3·4 次 SK1245)

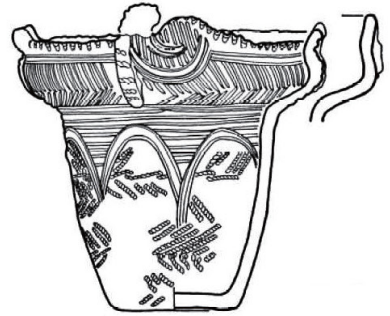
図 20 吹浦遺跡出土前期末葉の土器 4



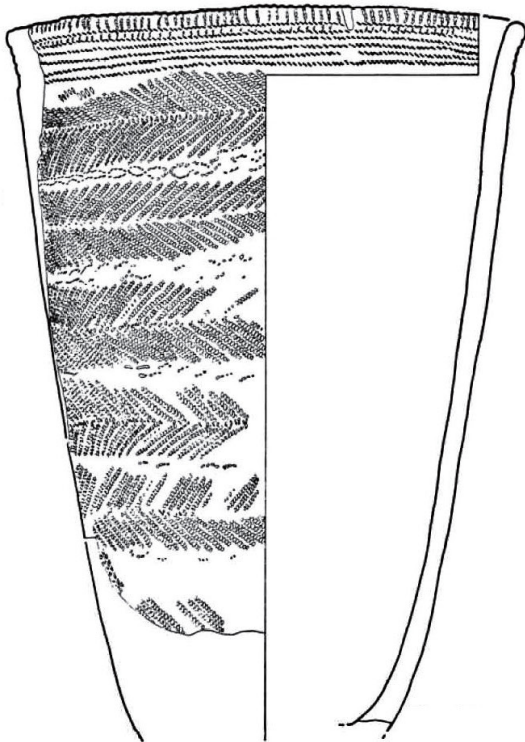
大木 6 式 4 期 (2 次 SK920)



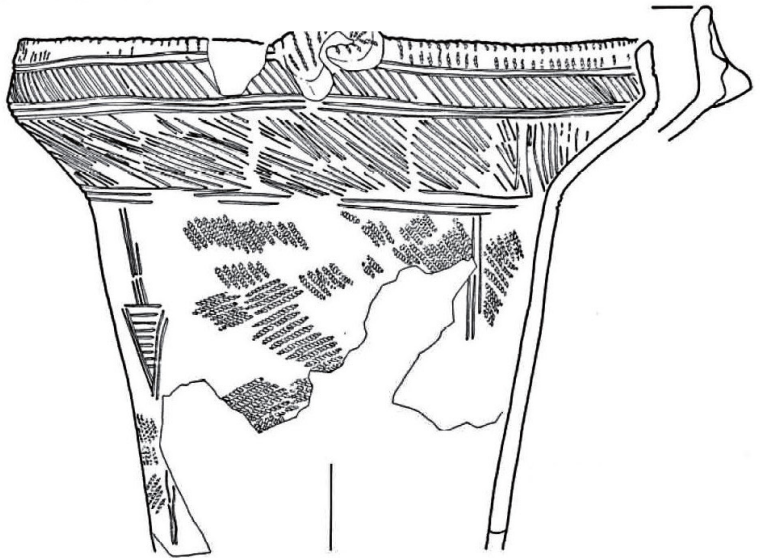
新保式上安原段階  
(3・4 次 SK1078)



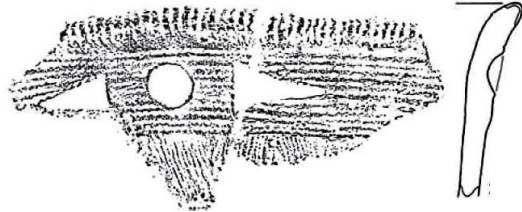
新保式上安原段階 (3・4次S K1078)



円筒下層 d 式 (3・4次 SK1078)



新保式上安原段階 (3・4次 SK1079)



円筒下層 d 系 (松原式) (3・4次 SK1079)

図 21 吹浦遺跡出土前期末葉の土器 5



図 22 遊佐町の縄文時代前期初頭～後葉の石器  
(小山崎遺跡 4 次調査第一調査区)

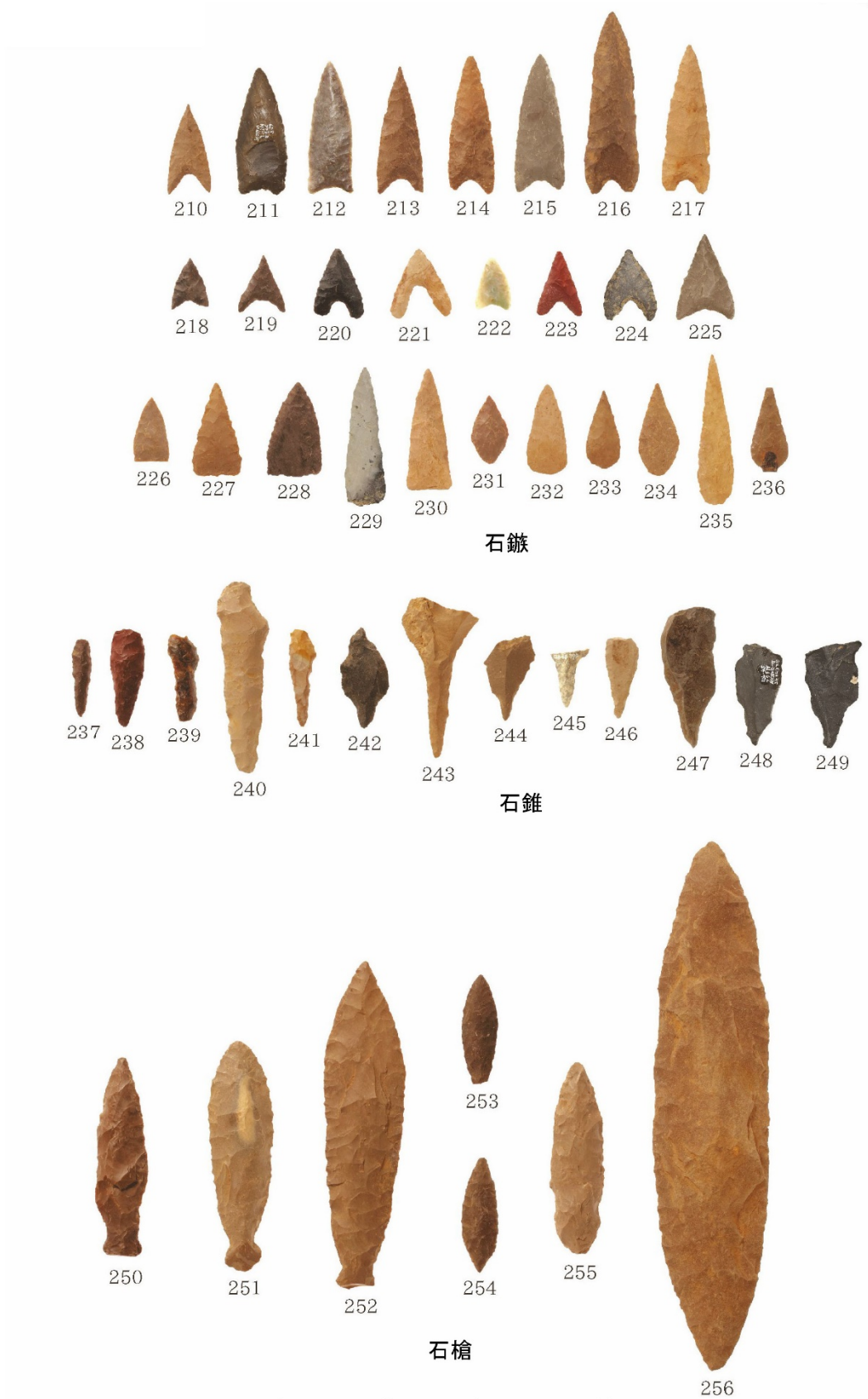


図 21 遊佐町の縄文時代前期末葉の石器 1  
(吹浦遺跡)

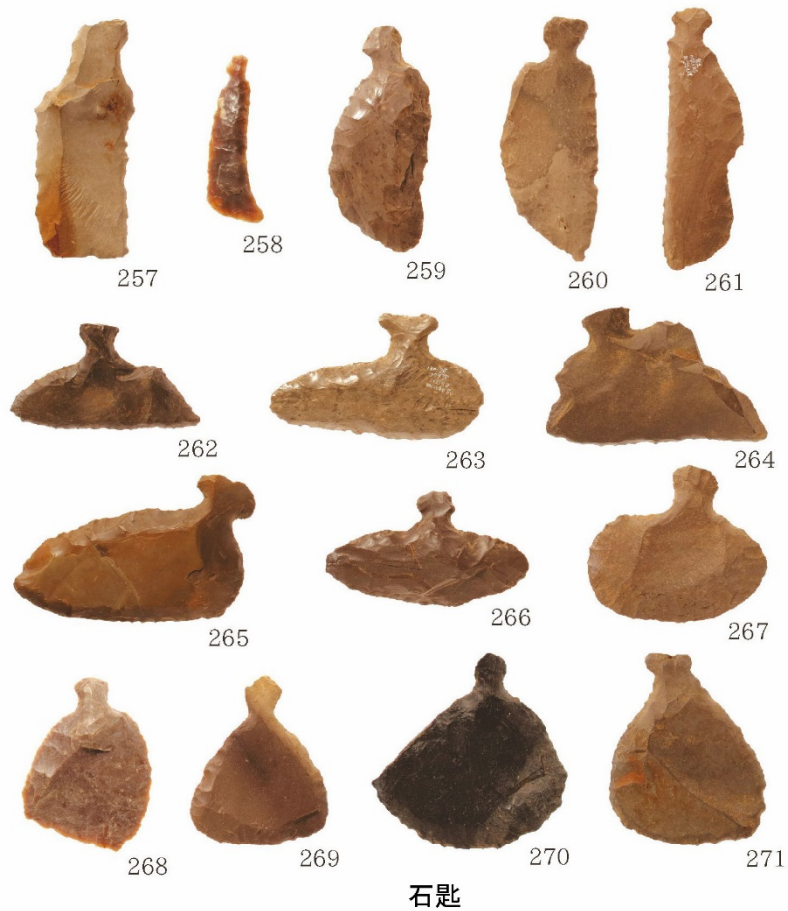


図 24 遊佐町の縄文時代前期末葉の石器 2  
 (吹浦遺跡)



図 25 遊佐町の縄文時代前期末葉の石器 3  
(吹浦遺跡)



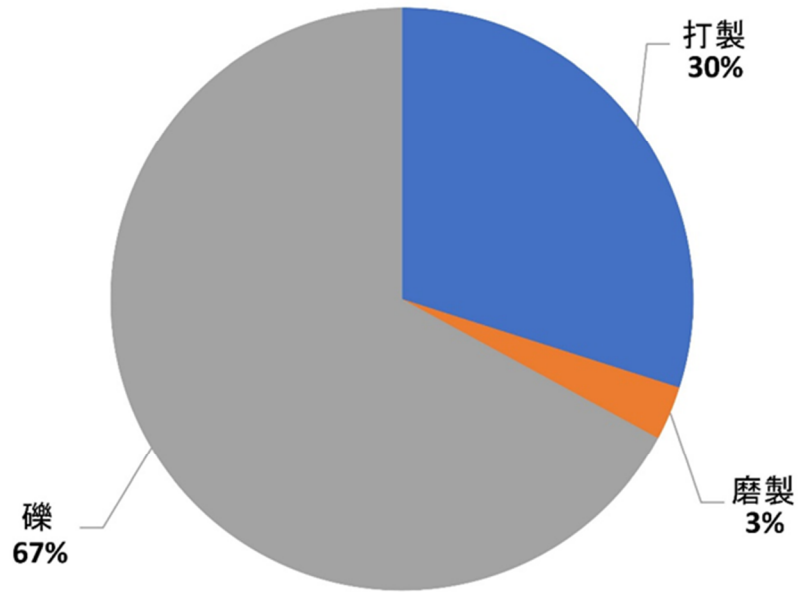


図 26 遊佐町の縄文時代前期末葉の石器 4  
(吹浦遺跡)



図 27 遊佐町の縄文時代前期末葉の石器 5  
(吹浦遺跡)

### 吹浦遺跡の打製・磨製・礫石器の割合



### 吹浦遺跡の打製石器の組成

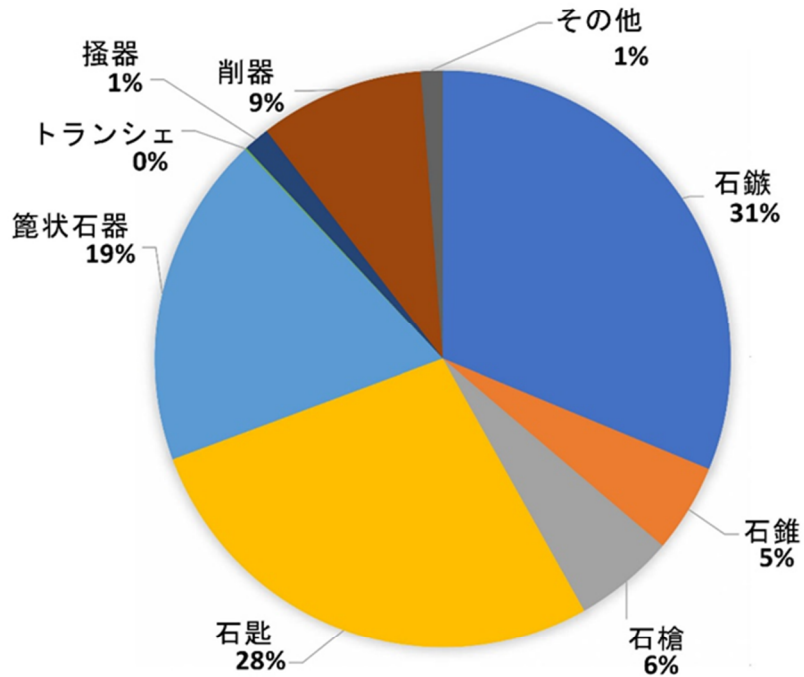


図28 吹浦遺跡の石器組成

# 異形石器

## 吹浦遺跡前期後葉



# 装飾品

## 吹浦遺跡



垂飾品



石製耳飾り



土製耳飾り



ネフライト製垂飾品他



586

S = 1/2

図29 吹浦遺跡の異形石器・装飾品